この人に聞く
Spotlight 58

インターハイ支える後輩にエール

北東北総体「高校生一人一役運動」アドバイザー
柏葉 幸二 さん

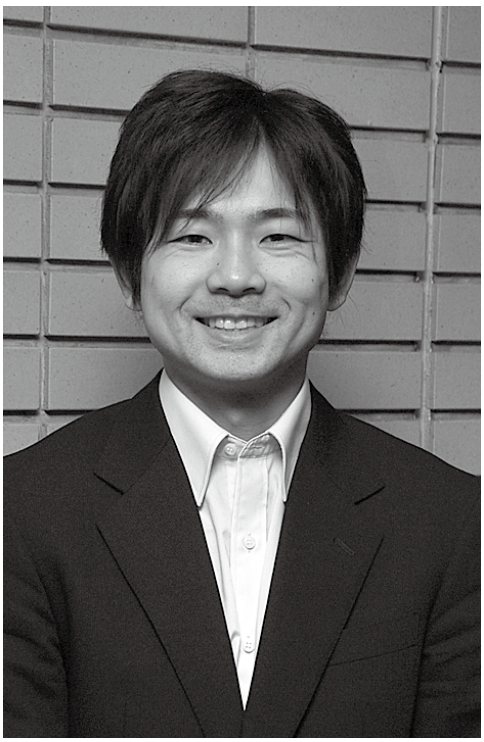
「皆さん、ようこそ水と緑の豊かな岩手へお越しくださいました！」

平成11年度全国高校総合体育大会岩手大会の総合開会式（8月1日・北上陸上競技場）で、柏葉さんは歓迎のあいさつを述べました。当時、専大北上高校の生徒会長。岩手総体へ向けての高校生「一人一役」運動を推進する、学生メンバーの一員でもありました。

北上が主開催地の大会を生徒一人ひとりに意識してもらおうと、プルタブ回収を提案。呼びかけと回収を地道に続け、車いす1台と交換して総合体育館へ寄贈しました。

今月14日に開催された北東北総体200日前イベントでは、12年ぶりの地元開催へ向けて活動する高校生へ、先輩としてエールを送りました。

`99岩手総体総合開会式で生徒代表のあいさつをする柏葉さん



「皆さんの柔軟な知恵と発想を大会に生かしてほしい。当日は選手よりも熱い大会係員になろう」

自ら進んで表に立つタイプではないというものの、周囲の期待が集まり生徒会副会長、会長を歴任。岩手総体では歓迎のあいさつを任されました。「初めはやらされ感があった。意識が変わったのは前年の四国大会の視察から。開会式での手話を交えた歓迎の言葉を見て心を動かされた」と、当時を振り返ります。「先生や他校の生徒、関係者や地域の皆さんとのつながりも生まれた」と、コミュニケーションの大切さを学び、今でも連絡を取り合う仲間もいます。

同じ立場を経験した1人として生徒の気持ちをくみつつ、活動を通して得られるものを感じ取ってほしいと、後輩たちを応援しています。

数字に見る北上 18

83,101 人

昨シーズン(21年12月～22年５月)の夏油高原スキー場スキー客入り込み数です。

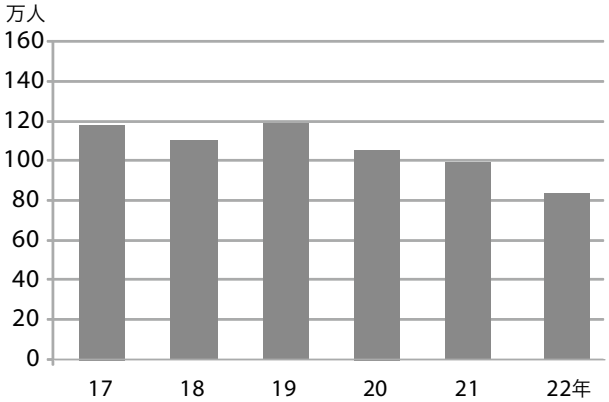
夏油高原スキー場の魅力は、本州トップクラスを誇る積雪量と良質の雪。圧雪バーンも氷になりにくく、スノーボードも全面滑走可能です。しかし、近年のスキー客離れから入り込み数は年々減少。過去４年間は10万人の集客がありましたが、21年には10万人を割ってしまいました。

昨シーズンは日本一長い滑り台の製作やイベントを実施し集客に努めました。今シーズンも楽しい企画を用意し、皆さんの来場を心待ちにしています。雪国ならではの冬の自然を満喫しに、シーズン真っただ中のスキー場へ出掛けませんか！

スキー場スキー客入り込み数

年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
人	118,447	110,323	118,777	105,817	99,797	83,101

※シーズンは前年オープン月から当該年の５月まで



話題の本

中央図書館☎63－3359
江釣子図書館☎77－2215
和賀図書館☎72－2322

帰ってきた「はやぶさ」	今泉　耕介
かいけつゾロリのだ・だ・だ・だいぼうけん！後編	原　ゆたか
ふゆのあそび	竹井　史郎
さいごのさいごのなかなおり	三田村　信行
北上に鬼剣舞あり	中津　攸子
会話のうまさで人生は決まる！	安田　正
脳が変わる考え方	茂木健一郎
日本の世界文化遺産を歩く	藤本　強
風にもまけず粗茶一服	松村　栄子

《1月の新着本から》

『ちょっとした奇跡』
緑川　聖司 著
小峰書店

図書館は奇跡に満ちている！図書館で起きる本に関するミステリーを、主人公のしおりと友達の安川君が、いろいろな人の力を借りながら解き明かします。

『伏（ふせ）　贋作（がんさく）　里見八犬伝』
桜庭　一樹 著
文藝春秋

娘で猟師の浜路は江戸に跋扈（ばっこ）する人と犬の子孫「伏」を狩りに兄の元へやってきた。里見の家に端を発した長きにわたる因果の輪が今開く！ちっちゃな猟師の女の子の命を賭けた大捕物。

きたかみ物産館

北上の新たな物産を目指して
二子産　芋の子かりんとう万頭（まんじゅう）▶▶58

万頭１個(40g)　120円
取扱店(同社市内４店舗)　江釣子SCパル店、さくら野店、ビックハウス北上店、マックスバリュ北上店

かぎや菓子舗(有)
堤ケ丘２-９-１
☎65-3531　FAX 65-3538

阿部大司代表取締役社長

二子さといもの頭芋（かしらいも）利用

次期岩手国体に向け同社が試行的に作った二子さといもの頭芋と黒糖を練りあんに用いたまんじゅうです。

一度蒸したまんじゅうを油で揚げかりんとう風味にし、さといも特有の食感を生かしつつ味わい深く仕上げた一品です。試験販売中ですので、感想をお寄せください。

散歩道 128

北上市長　伊藤　彬

冬の自然美

寒暖計がマイナスを示している寒い朝、何気なくいつものように洗面所でお湯を使う。年末に帰省した娘が水で洗面している。「お湯が出るよ」と言うと、シワができるからお湯は要らないと言う。そういえば母も昔から同じようなことを言っていたなと思い出しながら、小学生時代の住まいに記憶が戻る。

今日のような寒い朝、母が用意してくれたヤカンのお湯を洗面器に注ぎ、湯気で窓ガラスの「氷の華」の結晶が溶けゆくのを見るのが楽しみであった。木枠の窓からはすきま風が入り、雪が吹き込む朝もあった。冷え込んだ朝は、風呂場や洗面所のガラスが結晶して美しい模様の自然美を作り出していた。

冬休みの宿題に、この美しさを記録しようと思ったが難しかった。朝食後では家族のみんなが使う湯気で溶けてしまっていた。

最近の住まいでは、この美に触れることが無くなってしまった。現象の名を思い出せなかった。インターネットで調べた友が「窓霜」「霜の花」「氷晶」らしいと教えてくれたが、子どものころは別な名で呼んだような気がする。

十数年前、寒波の厳しいドイツの小さな村でダイヤモンド・ダストに遭遇し、美しさのあまりしばし寒さを忘れてたたずんだ。厳しい寒さを耐え忍んでいる人々へのご褒美であろうか。

テレビでは雪深い地域に暮らす人々の様が放映されている。「北国の冬は厳しく長いが、春が来る楽しみがある」と、さりげなく素朴で詩的な表現が印象的であった。

猫のようにコタツで丸くなるよりも、子どもは外で自然の美しさに触れるが良い。